

# 散歩中

※ 2015年正月の嘸

正月2日夕（晩飯前）にいつもの散歩に出かけた。状況は中雪。自宅近辺の道路の積雪はくるぶしより上程度である。雪国生まれの身としては、小雪（チョット積もった）程度の印象であるが、首都圏で言えば満貫ツモッタ・振（降）込んだと理解される量である。南国なら役満ツモッタ・振（降）込んだの印象かも。したがって、中雪の表現とした。

山側の公園が散歩コースの主体である。降った雪の量は「中雪」程度だが、コースの積雪は、以前の降雪が溶けずに累積し、膝上程度の状況である。その上、その積雪は雪質重く、歩行中もガンガン湿雪が降っている。一歩がとても重く、正に「難儀の雪中行軍」の表現が的確となる。しかし、何と戦っているのか？敵は一体誰（何）なのか？は不明だ。

園路はバリアフリー仕様により通常は歩き易いが、積雪、夕闇で見づらい、近視と老眼のWパンチ、しかも、非常時の激務による湯気と風雪により眼鏡が曇り、よく知る通り慣れた園路だが、前夜の御屠蘇のご利益が相まって、度々のミスコース。ひょっとして、まさかの「遭難」の言葉が脳裏をよぎる。正月早々、自宅近くの公園で「遭難」。民家が近い場所の「遭難」。明日（休刊日明け）の新聞の見出しがまた脳裏をよぎる。もしかして発見されず、「明日」ではなく、「明後日」か、ひょっとして「1週間後」かも。

妄想であると正気に戻り、この難行苦行を冷静に判断する。全面膝上の積雪ではあるが足跡がある。犬（と思われる）の足跡がいたるところにある。人間様の足跡（前日の＝元日か？）も何本かはある。しかし、元気な犬だ。足跡から推察すると飼い主から放たれ、自由に動き回っている（喜んではしゃぎまわっている）様子。まさに「庭駆け回る」の様相がありありと映し出されている。対する自分は「遭難」回避に難行苦行の体。精神的には犬並みのはしゃぎ様で園内に脚を踏み入れたのだが、フィジカルは犬未満、もうどうしようもない。犬死だけは避けたい。つくづく自分は馬鹿（もしくはアホ）と嘯みしめた。

それでも、人間様の足跡がいくつかあったのでまだ救われる。こんな雪の中を歩き回っている同類（種）の人が他にもいるとなると、訳の分らない安心感に満たされるし、勇気が湧く。途中「ソリ遊び」と推察できる痕跡が数か所見かけられたことも、背中を押してくれた。果たして、通常10分程度の前半の前半区間を30分以上かけて漸く踏破し、散歩コースを外れ、直近の除雪された車道にやむなく回避した。結果、全行程の1/4程度の距離（全行程、通常は1時間）に1時間半も費やした。這う這うの体で自宅前に着。こんもりと疲れきった心身に畳み掛ける積雪を見て見ぬふりをして、雪かきは明日の仕事とすることにし、家の中に入った。ほっとした。とにかく「遭難」しなくてよかった。

翌日もまた懲りずに散歩に出かけたわん。右脚上げてしもたわん。電柱でござる。